

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472300288		
法人名	株式会社ひまわりあくと		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	広島県大竹市南栄2丁目6-31 (電話) 0827-53-3130		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3472300288-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家族との信頼関係を大切にし入居者様の生活の質の向上に努めている。また3食の食事は手作りの物を提供しており、家庭的な雰囲気ですべての支援をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームさくらは国道や駅からも近く、住宅街の静かな利便性の良い場所に、位置しています。木造平屋建ての温かみを感じる建物で、2ユニット18名の利用者は、今までの生活と変わらない家庭的な環境の基で、一人ひとりの希望の暮らしができるようサポートされ、地域の行事に参加し、散歩、買い物と、利用者の能力に応じた自立支援がされている、管理者、職員は理念を共有し、利用者のその日、その時の気持ちに寄り添い、安心した日々が過ごせるような、様々な工夫や配慮が見られるホームです。</p>
--

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リビング内に理念を掲げ、職員、管理者ともに理念を共有するとともにミーティング時にも確認している	さくらの理念(利用者職員がひとつの家庭として、共に暮らせるよう暖かい雰囲気の中で、生活をサポートしていきます)を全員で共有して、日々確認し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会の方から声をかけて頂き去年も大竹祭りに参加した	地域の方から、地域行事のお誘いがあり、餅つき大会、大竹祭りなどに参加して、交流があり利用者の楽しみになっている。日々の散歩の際、地域の方と挨拶を交わし、畑の花や、野菜をいただくこともある。ボランティアの方の訪問で歌、ギター、ハーモニカを聞くことができ、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	まだ行動はできていないが今後の地域の高齢者の暮らしに役立つことが無いかを探していきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開いており利用者の暮らしぶりや取り組みを報告し、外部の目を通して意見や助言を得ながらサービス向上に生かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開かれ、地域代表、民生委員、家族、市役所、包括支援センターの職員、施設長、管理者の出席を得ている。議題はホームの状況報告、行事の取り組みなどを報告して、出席者から意見、提案をいただき運営に生かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町との連絡を密にしてより良い関係が築けるように努力している	運営推進会議に、市役所、包括支援センターの職員の出席で情報をえている。申請があった場合や、分からない事があれば出向いてアドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については家族の了解を得て実施している。また各居室の窓は毎日開けている	身体拘束はしていない。身体拘束のケアについて、職員研修を行いケアの共有をしている。拘束をしないケアについて家族へ認識してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止につとめている。	今年度は参加できなかった		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度を知るために必要に応じて学ぶ機会を設けている。また制度を利用する入居者もいたり、必要性のある入居者には家族へ提案したこともある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時は十分に説明し、理解、納得をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情へはすぐ対応するように入居者・家族・意見で話し合い、入居者の希望に沿うようにしている	家族の意見や、要望は訪問時に聞き、話しやすい関係づくりを目指している。遠方で来れない方には手紙、電話にて聞き取りをして対応をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やミーティングの時に出了意見はなるべく取り入れるようにしている。柔軟な対応ができるように努めている	朝礼、ユニット会議での意見や提案を聞く場として意見がだされている。日常の業務の中でも気づきや思いを管理者は職員から聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員、中堅職員、レベルに合わせて各研修に参加してもらうように代表者や施設長に相談し研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設のケアマネとも交流を図り、意見交換をしている		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が安心して話ができるような雰囲気大切にしているため時間はかかるときもあるが、何を一番に希望している努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困りごとなどを十分に聞き、また何を希望しているのかということも聞きながら信頼関係を築いていく努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族とご本人が何を希望し、当施設がどんなサービスを提供しどんな支援ができるかを話し合い情報を共有していけるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護するという雰囲気を出さずに共に暮らしているという関係であることを念頭に置き家庭的な雰囲気ですべて接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族へは面会時やケアプラン作成時などにご要望を聞き、時にはご家族の協力もお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問して下さったご友人やなじみのある方に再度訪問していただけるような雰囲気作りを気付けている	家族、友人、教え子などの面会があり、馴染みの関係が持続できるようサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	調理の準備やレクリエーションなどの場面場面で利用者同士が会話ができるように支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても面会に行ったり家族の相談に乗って関係を断ち切らないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に希望を聞いたり、消極的な方にはこちらから聴きご本人が生き生きと暮らせるように努めている	入居時、家族から生活歴を聞き、利用者の意向を受け止めるように努めている。日々の生活でその人らしく生活できるよう、その都度職員は情報を共有し検討を行い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談時にご本人の生活歴や環境を聞き取り大きく変化の内容に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できるだけご本人が自由に活動できるように、また心身状態にも気を配り小さな変化にも記録に残している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティング時に介護ケアを見直している。面会時や遠方のご家族には電話連絡で生活状況を伝え、ご家族の意向を聞き、施設の意向もお伝えしている	介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。1ヶ月に1回の全体ミーティングでは日々の観察の気づき、現状の把握、家族、利用者の要望を取り入れ、チームとして一緒に考え、計画担当者が作成して。変化があった場合、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は介護記録や介護健康記録に記している。職員間ではミーティングノート及び伝達ノートで情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族からの要望にはできるだけ沿うようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者生活の拡充のために地域資源を活用し暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しており、希望があれば他の病院に受診している。また在宅時からのかかりつけ医を利用されている方もあり自由にかかりつけ医を決めてもらっている	月2回、協力病院の往診で、受診ができる。在宅時からのかかりつけ医を、利用されている方もあり希望される医療機関で受診することができる。専門医の受診が必要なときは、安心した医療を受けられるよう支援している。	

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護師、協力病院の看護師に相談・指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携で情報を細かく報告・伝達し協力しあっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族と医師との話し合い後、職員と家族との話し合いを希望に添えるように努力している	入居の際、重度化した場合の説明をしっかりとしている。医療行為ができない為、看取りはしていない。重度化した場合、家族、医師、看護師、職員等で話し合い、ホームでできる事を話し合い、最善の支援ができるよう取り組まれた事例もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の行動を再確認シュミレーションをしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂き、その後も職員のみで確認し備えている	年2回の消防訓練で、1回は消防署立会いの基に行い、2回目はホームで自主訓練を日中、夜間を想定して、実施している。利用者が安全に避難できるよう、全員で取り組んでしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々にあった声かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導の際、本人を言葉などで傷つけないよう対応している。書類には気をくばり、名前ではなく、番号で申し送りをしたり、普段から言葉づかいには気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おおまかなスケジュールの中でご本人さんがやりたいこと、やりたくないことを把握し、また自由に発言できる雰囲気作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や状態に合わせて柔軟に一人一人のペースを保てるように努力している		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で見出し並みができるように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りをすることで家庭的な温かい食事を提供している、また朝に野菜切りなどをし、配膳時にはなるべく手伝っていただいている	食事は本社の管理栄養士による献立で、行事食も多く、旬の食材で季節を感じられるよう工夫されている。手伝える方は、調理の下ごしらえ、配膳、片付け、テーブル拭きなど職員と一緒にやっている。家族と外食に行かれたり、買い物に出かけた時、アイスクリームを食べるなど外での楽しみも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量にも柔軟に応じている、食事は記録に記載し、嚥下状態や粗食状態に合わせて形態を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがいや歯磨きは毎食後に実践している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記録し、月に1度開催されるケアミーティング時に報告、ケアの改善に役立っている	個々の排泄チェック表で把握し、一人ひとりの力や、薬の関係など柔軟に対応し、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳や乳酸菌飲料などご家族に持参していただいたりし、便秘予防に努めている。また主治医とも連携をとり、往診時などに排便状況の報告をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の拒否があれば無理強いせず順番変更するなどして工夫している	体調の確認を行い、一人ひとりの希望に合わせ、1週間に2～3回は入って清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床時間はそれぞれ自由に設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は職員で行っているが服薬の際は個人に合わせて口の中に入れて差し上げたり掌に置いてさしあげたりしている		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者一人一人の習慣やもてる力に応じて役割を見出し食器洗い、洗濯干し、ゴミ箱作りなどの場面作りをしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の希望にそって、散歩や買い物に出かける事が出来るように支援し、また家族にも協力を仰ぎ、墓参りや外出、外泊なども出来る機会を作っている	気候の良い日には散歩に出かけ、近くのコンビニで買い物したり、季節的に外泊できるような時には、家族の協力で墓参りや外泊されることもあり、旅行に出かけられた方もある。ホームからは錦帯橋へドライブに行かれ楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出る方は、ご自分のお財布から金銭授受を支援しているが、管理は職員で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望や状況によって支援し家族とのプライバシーに配慮しつつ支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天井が高く開放感がある。自然光を取り入れ明るい雰囲気になっている。季節の花や壁画を飾って居心地の良い場所にしている	リビングは広くて日差しが差込み、季節を感じる花や、利用者の方の作品が飾られている。清掃は行き届き、温度、湿度の管理がされ、快適な場で、利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでテレビを自由に見たり出窓の長椅子で利用者同士で会話をしたり、隣の棟へ自由に行き来出来るようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやテレビ、ベッドなど今までご自宅で使用されていたものを持ち込んで頂いたりしている	家庭で使われていた馴染みの家具、テレビ、ベッドなどが持ち込まれ、家族の写真、利用者の作品が飾られ、利用者の思いを優先し、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下は広くとってあり、歩行器やシルバーカーで安全に歩行できるようにしている。また手すりを設置し安全にも配慮している		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームさくら

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名グループホームさくら

作成日 平成29年3月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	研修に取り組む時間が取れなかった。	今年度は早めに予定を立て遂行する。	県や自治体の研修と社内研修にも力を入れる。	6ヶ月
2	30	協力病院との連携の中で歯科受診ができていない現状である。	適切な歯科受診が受けられる。	訪問歯科の依頼をし受けられる体制を作る。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。